

176
3
130

館籍表會育教本日大

一
三
五
六
册

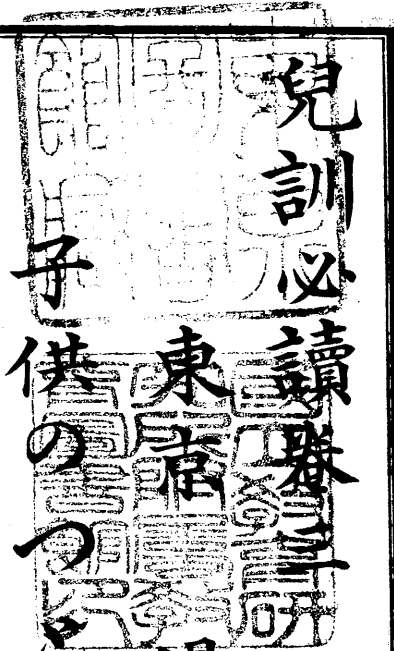
四
架

一
九
函

堤正勝編
兒訓必讀

卷三

明治十九年六月四日内務省贈付



兒訓必讀卷三

東嶺 堤 正勝 編

子供のつとめ

第一 一身の心得

○學問は人の才智をますも

のなり。説苑

學問

巴川公費 卷三 一 全集

○學問をせざれば。才を廣むることなし。三國志

○をさなきとき。學ばざれば。

成長ののち。才能あし。家語

○學問は。萬のことをなし得べき。もとゐなり。林子平父兄訓

強勉

○勉強は。さいはひをうむ。母のごとし。童蒙をー草

○は。じめよ。勤むれば。後に樂

みれほし。文武訓

○なに事をするにも。骨ををしまざるべし。林子平父兄訓

實信

○人十たびつとむることは。己れは百たびつとむべし。中庸

○人の名をなすは勉強の志西國立志編るしなり。

○實意よてせしことは大なるあやまちなし。童子訓

行言

○偽にてせしことい。必やぶれありと知れ。大和俗訓

○親切よして實意をつくすは人たるの道あり。子弟訓

○口よいふこといやすく身に行ふことはかたし。初學訓

忍堪

○言をばひか
 に。行をばつと
 むづし。同上
 ○すこし此間
 を。忍びざれば。
 大なる過をふ



韓信耻を忍ぶ圖

和温

す。
言思録

○よく堪忍をすれば。わざと
 ひなし。
初學訓

○ならぬかんにん。するが
 か
 ん又ん。
諺草

○温和にして。争いざれば。敵

なし。大和俗訓

○やなぎの枝に。ゆき折れ

なし。諺草

○わが身をひきさげ。人をた

ふとむべし。小學

○わがきらふ度をば。人よし

怒忠

遜謙

過改

むけざるべし。論語

○わがこのむことは。人もこ

のむものと知れ。初學訓

○わが身をつんで。人のいた

さを知れ。諺草

○身よあやまちあらば。はや

義禮

く改むべし。大和俗訓

○過ありて改めざるを。まこと

との過といふ。論語

○よろづれ事。禮儀あり。つ

ゝしむべし。大和俗訓

○喧嘩口論ハ。無禮よりおこ

る。全上

第二 父母及師ニ事ふる心得

○父母ニつかふるには。詞を

和らかにし。顔色をやさしく

せよ。小學

○父母にむかひて。いかるは。

大なる無禮ふり。童子訓

○父母われをよばず。をやく

行づし。大和俗訓

○師よりうけし教ハ。心をつ

くして習ふべし。童子訓

○師につかふることい。父に

事るとねなじ。小學

第三 兄弟の間の心得

○兄弟むつまじくして。父母

の心をよろこばしむべし。新日

館童子訓

○弟いたるかなりともいた

はりて教へよ。初學訓

○弟に過ありともすこゝの

ことい。責るなかれ。童子習

○弟妹などに過ありてたゞ

すときい。教を本とすべし。大和

俗訓

第四 友だちに交る心得

○わが身は善をふして。友達

は善をすゝむべし。大和俗訓

○わが身の悪をとりて。友達

の悪をいまゝむべし。全上

○友達に過あらば。面前まで

言ふべし。かげよて誅るべからず。初學訓

○親むべき友達は。行儀正しくして。眞實なる人西國にあり。立志

篇

第五 作法

○戸障子のあ

けたては。必ず

坐りてせよ。禮曲

○あけてある

戸障子の。その

まゝにあけた



きたてゝあるをば。たつべし。
同上

○飯をくらふにい。多く口よ
ふくまず。よき程にすべし。同上

○食するに舌をならし。味ふ
ことふかれ。同上

○年たけし人と。同く食する
ときい。その人よおくれて。箸
をせむるべし。内則

兒訓必讀卷三終

與諸必請

金港堂

明治十九年二月二十六日版權免許

價五錢



編輯并出板人

東京府士族

堤

正

勝

麹町區飯田町六丁目九番地

日本橋區本町三丁目十七番地

金港堂原亮三郎本廬



大阪北久寶寺町四丁目

金港堂原亮三郎支店

岐阜

金港堂原亮三郎支店

賣捌

各府縣下代理大賣捌所